

## 第2回「新・ほっかいどう社会資本整備の重点化方針」有識者検討会 議事概要

- 1, 日時：令和4年11月1日（火）14：00～15：30
- 2, 場所：道民活動センター（かでの2・7） 1050会議室
- 3, 出席者：[委員] 小磯修二委員、関口麻奈美委員、高橋清委員、  
村上正恵委員、村上裕一委員  
[事務局] 計画局長 上田晃弘、社会資本・強靱化担当課長 上前孝之、  
課長補佐 松本大志、社会資本整備係長 前川晃一
- 4, 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 議題
    - ① 新・ほっかいどう社会資本整備の重点化方針改訂（素案）について
    - ② その他
  - (3) 閉会
- 5, 議事及び主な発言内容（委員からのご意見）

（高橋清委員）

- ・ 今回のポイントは二つ。一つは、なぜ中間見直しをするのかというメッセージ性。もう一つは、優先度の設定で、大きな仕組みを変えず、新しく入れるもの、順番を上げるものをロジカルにしっかりやること。
- ・ 一つ目のメッセージ性は、素案の1ページと19ページに、しっかりその辺りが書き込まれていて良いと思う。一点付け加えると、1ページ目の下から2行目、「安心・安全な暮らしを支える社会資本」にもう一步踏み込んで、ウェルビーイング的により豊かになっていく旨を加えてはどうか。素案19ページについては、社会資本の連携や繋がり、多目的、多機能の観点も入っていると思う。また中ほどの「ストック効果の最大化」が一つのポイントで、これがあることで、今一度、社会資本を見直そうというメッセージが出ているので大変良い。
- ・ 二つ目の施策・事業優先度の考え方について、大きくシステムを変えることなく、先ほどのメッセージ性の部分の総合計画やSociety5.0推進計画など見直す理由を踏まえ、施策の評価をし、結果を検証して、入れる入れないというところが的確に盛り込まれていると思う。
- ・ 本方針をしっかり推進していくため、実効性を伴うものにしていくことが重要。社会資本は本当に多岐にわたっていて、例えば私の専門の交通であれば、観光基盤でもあり、交通基盤である。また防災のことを考えたら国土保

全の基盤でもある。そういう横断的なものもあるので、今後も庁内横断的に検討していただければ良い。

- ・ 素案 43 ページ別表 1 集計表は大変重要。これを基に議論しているが、この集計表が一人歩きしても大丈夫なよう記載の内容を精査して欲しい。
- ・ 防衛という言葉の本編に入れることはなかなか難しいが、安全保障等の観点も含め議論をしたことは、何らかの形で残しておかなければならないと思う。
- ・ 総合計画の改訂では、道民の方に一枚だけを読んで大体の議論の内容をわかしてもらおうよう、委員長名でメッセージのような文書を作った。もしかするとそういう方法もあるかもしれない。
- ・ まさに今のウクライナの状況など、事実はしっかり書いたほうがいい。そこから国境を接したエリアとか、紛争がどういう形で経済に影響を与えているのか表現できるとよい。

(村上正恵委員)

- ・ 素案 1 ページの「方針改訂のポイント」で、安全な暮らしをプッシュアップする意味で、「充実させるとか豊かにする」というメッセージを加えてはどうか。また、人口減少とか感染症は、実際に対応せざるを得ないものだが、「デジタル化」はこれらの要因を解消するためのツールとして推進しているものという意味で、並列ではない表現にできたら良いのではないかな。
- ・ 素案 19 ページの「地域全体の最適化」で、単年度のものではなく、これから人口減少していく中で「長期的にも考えられる最適化」という意味で、「長期」もしくは「持続的」な文言を入れてはどうか。また、資料 2 の⑥にある「ストック効果の最大化と多目的・多機能化」が、まさに、今回加える視点だと思うので、最後の 2 行ところに「ストック効果の最大化、多目的化・多機能化」を入れてまとめるとメッセージは伝えやすいのではないかな。
- ・ 方針の運用について、横の連携に加えて、実際に事業を実施する現場の方々にも、何を重点化したいからこの事業をやるのかというところを共有していければ、みんなが同じ目的で進んでいけるのではないかな。
- ・ 国防関係について、リスクに対して国や北海道がどう対応していくかというのは、強靱な北海道づくりに繋がっていくところだと思う。今は自然災害だけに対応しているが、対外的な危機も含むよう「等」をつけるだけでも読み込めるかもしれない。

(村上裕一委員)

- ・ 食料やエネルギーの安全保障について、生産自体を充実させることも重要

だが、その産物をどのように滞りなく運んで、消費者に届けるかということも重要で、そのために物流を充実させる必要がある。物流関連の社会資本として道路や、港湾、空港、鉄道などがあるが、それにどう優先順位をつけるかが重要だと思う。

- ・ 最近、国の有識者会議で、国防とインフラに関する議論が行われている。北海道は国境に接していることが特徴的で、本方針が北方領土隣接地域の振興を最優先施策に位置付けているように、国境に近いからこそ、安全保障をも見据えたインフラ整備が重要になるのではないか。その際、平常時でも非常時でも使えるインフラという視点があっても良いと思う。
- ・ 方針を作る以上、実効性を高めていく必要がある。全庁的な調整及び市町村も含めこれを実効的に進めていくため、計画局（事務局）がリーダーシップを発揮し、かつ、横割りの視点も入れながら、本方針にメリハリを付けていくことができれば良いと思う。

（関口麻奈美委員）

- ・ 素案1ページの「方針改訂のポイント」の「安全な暮らしを支える」の後に道民の暮らしが「より豊かに」なる視点があった方が良いと思う。
- ・ 素案19ページの基本姿勢「ストックの最大効果」のところで言うと、新しい未来技術を有効に活用し社会資本整備のあらゆる分野で活用していくような視点を、方針のどこかにうまく盛り込めると良い。特に、地方は人口減少が進み、人材不足も深刻で生活の中で困っている地域が増えてきている。地方を支えていくためにも、未来技術を活用するという視点をどこかに盛り込んだほうが良い。

（小磯修二委員）

- ・ 前回も提起したが、人口減少の問題が言われ続けながらも、出生率が上がらないどころかコロナによって急速に出生率が低下していくという危機的な状況である。人口が減ってくると提供する政府部門の供給力が、特に自治体では弱くなっていく。人口減少時代の社会資本整備のあり方をどう考えていくのか、改めてこの重点化という政策の議論の中でも、そこを自覚的に議論していくことが大事。
- ・ 村上裕一委員から問題提起があった物流の問題について、物流機能の強化を社会資本整備の重点化というスキームの中で、どのように受けとめて行くのかも大事だと思う。社会資本整備というのは器づくりであるが、ただ器だけがあってもダメで、そこにおいしい料理が盛られて生きるもの。経済活性化のために器をどう使っていけば良いかという議論も併せて進めていく

ことが、総合計画の目的を達成するための議論としては大切。だから、先程の多目的・多機能にも通ずる部分があり、例えば、観光消費を高めるインフラは何かというと全てに関わる。つまり、色々な切り口と多次元的な議論が求められていて、それを二次元の平面的な議論に整理してしまうと、そこが浮かび上がってこない。横断的、多次元の整理は難しさはあるが、道の政策に関わっている方の腕の見せ所でもある。問題提起として受けとめていただきたい。

- 地域意見について、最初の重点化プランの時代から振り返ってみると、地域の声として直接住民の声を聞いて重点化を考えていこうというアプローチをした。それがこの政策の一つの特徴でもあるので、市町村等の意見聴取について、単に「素案についてどう思うか」と聞くだけでなく、うまく深層の意見をくみ取る工夫をするなどプロセスを丁寧に進めて欲しい。
- 防衛について、今の国際情勢のこの危機的な状況の中で、緊張感を伝えていくことが大事ではないか。例えば、我が国が有事になった場合の首都機能のBCPのような発想で、バックアップ機能としての北海道の役割を強化していくという視点で、社会資本整備を考えていくということは、結果的には平時において、道民にとっても有益なインフラ整備にも繋がっていくことになるのではないか。
- 社会資本整備に関しては、時代とともにその役割も変わっているし、目的も随分変わってきている。今の国防に関するこの検討会での議論は象徴的で、なかなか本文に書きづらい意見や考え方はあるが、高橋清委員の発言にもあったように次の議論に繋いでいくためには、議事録のほかに「はじめに」とか、「おわりに」でもいいし、何らかの形で残しておくことが大事だと思う。
- 多目的・多機能というのが、この検討会の中では一つの大事なキーワードになっている。素案19ページに遊水地が例として書かれているが、日本の遊水地の歴史は結構古い。以前に見た上野の遊水地は、普段は農地で使われていて、遊水地という社会的インフラと優良な農地の両方がしっかり共存している。これからは、より有効な利用を常に心がけながら、多様に使っていくという、まさにコモンス的な、共生的な視点で社会資本の活用を考えていくことが大事。最適化の視点が、長期的には重点化にも繋がっていく。そういった議論に繋がる具体的な展開事例があれば良い。